

うたの旅人

ニューヨークの青春群像劇

北海道に生まれ育ち、いまも住む歌手の松山千春さん(55)は、シンガー・ソングライター下田逸郎さんに私淑する。

松山さんは1974年に足寄高校を卒業。北見市でバーテンをしながら歌を作っていたある日、下田さんが73年に25歳で作った歌「踊り子」に出合った。「それまで聴いていた恋愛の歌とは全然違う。こんな人がいるんだな、と思った」

数年して、今度は下田さんの「SEXY Y」を聴く。見知らぬ歌い手「下田逸郎」に対する尊敬の念はさらに増した。「旅を重ねながら、自分の世界を奏で続けているのがすごい。人生そのものが音楽になっている人を他に知らない」



45(2000)と出会う。誕生日が同じで3歳年上の東は、寺山修司の劇団「天井桟敷」から独立。68年12月、オリジナルのロックミュージカルを発表する劇団「キッド兄弟商会」を結成し、音楽監督に下田さんを迎えた。東と下田さんら4人で200万円を集め、拠点となる東と下田さんの創作はこんな具合で進んだ。東がまずナブキンなどに詞を走り書きして、下田さんに渡す。下田さんは「こんな感じ?」と、ギターを弾きながら曲をつける。「そうやって出来た作品は的を外したことがなかった」と、初期に制作スタッフを務めた長井八美さん(62)は証言する。「お互いに、こいつとしか出来ないと思っていたはず。でも、

口が裂けても2人はそう言わない」朝日新聞の演劇記者だった演劇評論家の扇田昭彦さん(71)は思い起こす。「無名の若者たちが、自分の現実を自分の言葉で語るミュージカル。私は癒やされ、幸せな気分になり、高揚してアパートまで走って帰った。下田さんの音楽が、東さんの世界を見事に支えていた」69年発表の4作目、青春群像劇「黄金バット」で劇団は内外から注目される。米国人プロデューサーからニューヨーク公演の話が持ちかけられた。小劇場を処分し観客も捨て、東と下田さんは片道切符で先遣隊として渡米した。劇団名も「東京キッドブラザース」と変えた。ところが破談になる。帰るに帰れない彼らの前に現れたのが、女性プロデュー

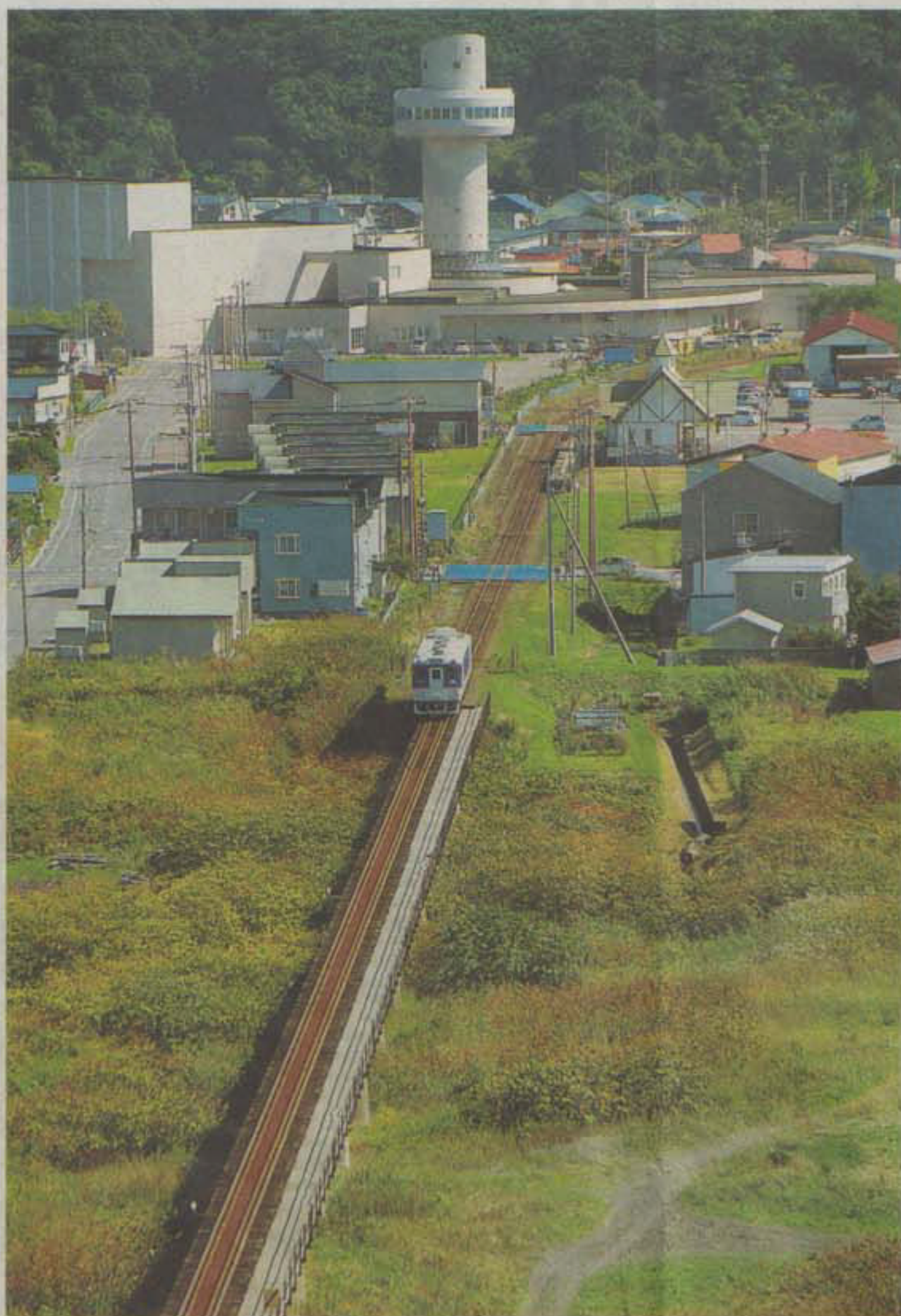
サー、エレン・スチュワート(1919〜2011)だった。オフ・オフ・プロードウェーで小劇場「カフェ・ラ・ママ」を主宰する愛称「ビクママ」は、劇場も宿泊場所も提供してくれた。70年6月、「GOLDEN BAIT」開幕。日本語と英語を混ぜ、東・下田作の15曲を歌う和製ミュージカルだ。ニューヨーク・タイムズの劇評で称賛されて評判を呼び、7月にはオフ・ブロードウェイに進出。年末までのロングランになり、劇団員は、著名なテレビ番組「エド・サリバンショー」にも出演した。東は後にこう書く。「青春とは、たとえ逆境にあっても、逆転のチャンスがあるものだと思わずにいられた」

71年初め、劇団は東京・後樂園ホールで「凱旋」公演「帰ってきた黄金バット」を打つ。だがこの舞台を最後に、何人かが劇団を去った。下田さんもそうだった。千秋楽の後、セットを黙々と壊していた下田さんの姿を、創設メンバーの一人、久生美子さん(64)は遠くから見

いた。「実業家志向で人を動かそうとする東さんと、自由に動きたい下田さん。ぶつかると思ってた」と振り返る。



22歳で石川セリさんが歌った「SEXY」



①新冠町を走る日高線 ②北海道新冠町高江 ③下田逸郎さん(右)と東多加さん ④70年4月、東京都渋谷区、柿崎誠二さん提供



以来、エジプト、長崎、種子島、沖縄、北海道……と、放浪の旅を重ねた。歌は「時々おちてくる」という。「SEXY」が生まれたのも旅の途中の一瞬だった。73年ごろ、ニューヨーク発の飛行機が羽田への降下を始めた。窓の外には「汚れたフライパンのような街」が広がる。夜の闇。工場の煙突には火も見えた。明日のことは誰も知らない。「旅に出るなら 夜の飛行機」という歌詞の一節が生まれた。75年に石川セリさんから曲を頼まれた時に完成させ、提供した。「旅の一応の終着地」を北海道新冠町に定めたのは不惑の頃だ。皿を洗い、まきをくべ、釣りをして暮らす中で「自意識や自己愛は前向きに消えていった」。「キッド」は人気劇団であり、有名俳優が輩出した。80年代にも「ラ・ママ」で柴田恭兵さんらが公演、99年まで約80作品を上演した。2000年の東の死で活動は休止する。「時代に合わせ変えていける東さんに負うところが大きかった。きちんと再評価されてしかるべき劇団です」と、扇田さんは言う。

◆今回は、阿久保・小林亜星さんコンビが都はるみさんのために書き下ろした「北の宿から」(大分・豊後高田)です。

ぶらり

下田逸郎さんが「北の拠点」としている北海道・日高に行くには、JR苫小牧駅から日高線に乗る。電車は波打ち際を走り、節婦一新冠間の判官岩あたりは「荒波の打ち寄せる海岸」として有名だ。

日高地方は道内の他地域に比べて雪が少ないため、牛馬飼育の適地とされる。新冠町には競走馬牧場が多く、「サラブレッド銀座」の名がつくほど。国道235号から日高山脈に向かう道路沿いに牧場が続く。その一つ「優勝スタリオンステーション」(☎0146・47・3966)では、オグリキャップの像に会える＝写真上。



街中にある「新冠町レ・コード館」(☎0146・45・7600、写真下)はレコード約80万枚を所蔵する。20世紀の文化遺産であるレコードを後世に継承することで「まちづくり」をしようと、1997年に開館した。ジャズ評論家やクラシック評論家、収集家からの寄贈で主に成り立つ。午前10時～午後5時、月曜休館(祝日の場合は翌日)。入場料は一般500円、高校生300円、小・中学生200円。国内最大級のスピーカーシステムでレコードの音を体験することもできる。



味わ

新冠町のレストラン「ベンチタイム」(☎0146・47・3650)は、下田逸郎さんが日高に来ると必ず訪れるお気に入りの店。下田さんのCDや著作も置いてある。地元の食材を使った洋食で、お薦めは有精卵のオムライス。国道235号沿いの丘にある、大きな馬が描かれた壁画が目印だ。火曜、第3水曜日休み。

聴く

石川セリさんの歌う「SEXY」はCD「Re:SEXY」の他、たいいていのベスト盤で聴ける。下田逸郎さんのCDや「ザラストゴールデンバット」(2010年)などのDVDは、下田さんのホームページ(下田通信所、<http://www.t-chest.jp/shimoda/>)から入手できる。

読者へのおみやげ 新冠町で買い求めた、サラブレッドなどの絵柄の布製の小物入れを5人に差し上げます。はがきに住所・氏名・年齢・「15日」を明記して、〒119-0378郵便事業会社晴海支店留め、朝日新聞be「うたの旅人」係へお送りください。20日の消印まで有効です。

今週の「うたの旅人」で紹介したCDはアサヒ・コムから購入できます。一部は試聴できます。<http://www.asahi.com/shopping/news/>

『うたの旅人Ⅰ』『うたの旅人Ⅱ』が販売中です。本(朝日新聞出版、1680円)、CD(キングレコード、2500円)ともASA経由で購入できます。BS朝日のテレビ番組はアンコール放送が始まります。16日正午から「愛燦燦」、17日午後11時から「川の流れるように」です。